

第57回 憲法を考える映画の会

「いっしょに闘う」とは、どういうことなのか？
それは、自分の問題としてとらえ、行動すること。

地の塩

SALT OF THE EARTH

2020年11月3日(休)

文京区民センター 3A会議室

東京都文京区本郷4-15-14
地下鉄 春日駅2分/後樂園駅5分

13時30分～15時10分

映画『地の塩』97分

15時30分～16時30分

トークシェア

映画批評家 木下昌明さん(予定) とともに

参加費：1000円 学生・若者500円

●コロナ感染予防にご協力ください(マスク・消毒)

会場の席数が制限(95席)されています。
参加希望の方は事前に下記連絡先にご連絡ください。
感染状況の拡大などによって中止、延期になる場合
があります。



『地の塩』は、1954年制作のアメリカ映画で、労働運動の不朽の名作といわれる作品です。

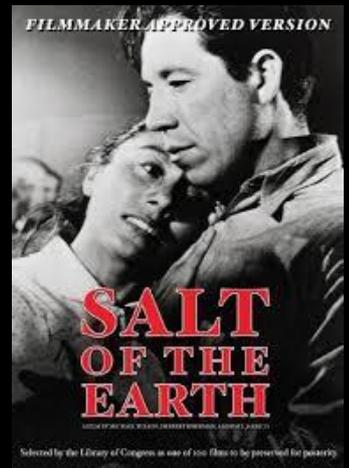
「ニューメキシコ州のある鉱山で働くメキシコ系労働者の家族の物語。ある日、ハッパ作業でそのメキシコ系労働者の中に犠牲者が出て、組合幹部ラモンらの怒りは爆発した。やがて、亜鉛鉱山はストに突入。

資本家には差別を抗議するラモンらも、家庭に帰れば妻を差別する古い意識の持ち主で、スト支援に立ちあがる彼女らを好まない。闘争は長期化し、ピケットラインに会社の手先、保安官らの攻撃が加わりラモンらは逮捕され暴行を受けた。その頃、ラモンの妻エスペランサは3人目の子を産する。反労働者立法を利用し、スト労働者のピケ禁止令が通告された。「それでは労働者でない女性の手でピケを続行しては」。婦人達の提案が、組合により可決された。彼女達はピケの前面に立ち、逮捕されてもひるまなかった。」

監督は、レッド・パーズの「ハリウッド・テン」の一人、ハーバート・ピーバerman。彼はこの『地の塩』を製作して以降、完全に映画界から追放されました。

日本では1977年に労音会館で上映された後、上映の機会はほとんどありませんでした。「レイバー映画祭2018」で上映した時「労働運動というテーマだけでなく、運動内部のジェンダー問題に深く切り込んでいたところがすごい」「50年以上前に作られた映画だが、その問いかけは十分に現在性を帯びている」との感想が寄せられています。

「2018年のいま“Me Too”運動や非正規女性のたたかいが広がっている。今こそ、この映画の出番である。『地の塩』が描いた普遍的・根源的な問いかけは時代と時間を超えて迫ってくるだろう。『これを超越する労働運動の映画はない』」(木下昌明さん) 1954年・アメリカ映画・97分・配給：ビデオプレス



題名「地の塩」の意味は、「塩が食物の腐るのを防ぐことから、少数派であっても批判的精神をもって生きる人をたとえていう語。」(大辞林)「……塩がすぐれた特性をもつところから、転じて広く社会の腐敗を防ぐのに役立つ者をいう語」(広辞苑)

「憲法を考える映画の会」と「レイバーネット日本」は、2020年11月を勤労・労働月間として3日に「地の塩」、23日に「人らしく生きよう」の連続上映会を開催します。(裏面もご覧ください)

憲法を考える映画の会

憲法を考える映画の会 特別上映会

「いっしょに闘う」とは、どういうことなのか？
それは、自分の問題としてとらえ、行動すること。

人らしく生きよう —国労冬物語



2020年11月23日(休)

文京区民センター 3A会議室
東京都文京区本郷4-15-14 地下鉄 春日駅2分/後楽園駅5分

13時30分～
**映画『人らしく生きよう
—国労冬物語』(100分)**

15時30分～16時30分
トークシェア
制作者：松原明さん、佐々木有美さん、
森健一さん：『戦後史のなかの国鉄闘争』著者
とともに

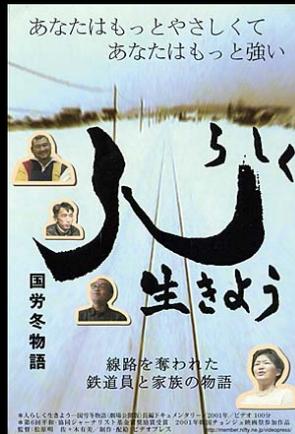
●コロナ感染予防にご協力ください（マスク・消毒）
会場の席数が制限（95席）されています。
参加希望の方は事前に下記連絡先にご連絡ください。
感染状況の拡大などによっては中止、延期になる場合
があります。

現代のリストラの原点である、国鉄分割・民営化
の実態を15年にわたって描いたドキュメンタリー。
まさに現在の分断と断絶の社会が、中曽根政権の
臨調路線によって始まったことが明らかになる。

分割民営化に反対する国労組合員には、ありとあら
ゆるイジメと差別が行われた。
そのあげく1000名近くの組合員が解雇された。
残った組合員にはJRで引き続く差別が待っていた。
解雇された人も、残った人もなぜ、彼らはこうし
た現状に耐えて国労組合員であることをやめない
のか。日本の戦後に脈打つ「労働者魂」をみるこ
とができる。

2001年制作 100分
制作：松原明 佐々木有美 配給：ビデオプレス

「憲法を考える映画の会」と「レイバーネット日本」は、
2020年11月を勤労・労働月間として3日に「地の塩」、
23日に「人らしく生きよう」の連続上映会を開催します。
(裏面もご覧ください)



憲法を考える映画の会 協賛：レイバーネット日本

憲法を考える映画の会：〒185-0024 国分寺市泉町3-5-6-303 TEL&FAX：042-406-0502 E-mail：hanasaki33@me.com
レイバーネット日本：〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-108 TEL：03-3530-8588 FAX：03-3530-8578
E-mail：labor-staff@labornetjp.org ホームページ：http://www.labornetjp.org/